

令和 3 年 度

事 業 報 告

令和 3 年 4 月 1 日から
令和 4 年 3 月 3 1 日まで

公益財団法人日本習字教育財団

目 次

(令和3年度事業報告)

一. 書道の通信教育及び実習指導	1
1. 通信教育	1
2. 実習指導	3
3. 学習希望者並びに継続学習者の支援	4
4. 書道用具の頒布	6
5. 国際交流	6
6. ホームページの運用	6
7. 習字の日（11月2日 いい（11）もじ（2）の語呂合わせ）	7
8. 展覧会の後援及び書道展の支援	8
9. 文化講演会の開催	8
10. 創立70周年記念事業	8
二. 書道に関する展覧会の開催	8
1. 書道展の開催	8
2. 書き初め大会の開催	10
(1) 第1回オンライン書初め大会の開催	10
三. 書道に関する機関誌その他の出版物の発行	11
四. 文字資料その他文化資料の調査研究と展示公開	11
1. 書道文化に関する調査研究	11
2. 文字資料その他文化資料の展示公開	12
3. 教育・文化施設の運営	13
五. 書道に関する教育・研究機関への助成	14
六. その他本法人の目的を達成するために必要な事業	14

一．書道の通信教育及び実習指導

1．通信教育

(1) 教材

各コースそれぞれ教材及び教師用指導書「教師月報」を配布した。通信教育会員向け機関紙「日本習字だより」と「たのしい習字」を毎月発行した。



(2) 学習方法

受講申込みの後、教材配本→学習後、課題提出→認定・添削、質問への回答→返送を1か月の学習サイクルとして行った。臨書部の添削については希望者のみ行った。また書写技能基礎講座、書道臨書講座については最終課題提出時に修了試験を行った。



(3) コース

No.	通信教育の名称	期 間
1	日本習字幼児部	1 2 か月
2	日本習字小学1年	1 2 か月
3	日本習字小学2年	1 2 か月
4	日本習字小学3年	1 2 か月
5	日本習字小学4年	1 2 か月
6	日本習字小学5年	1 2 か月
7	日本習字小学6年	1 2 か月
8	日本習字中学1年	1 2 か月
9	日本習字中学2・3年	1 2 か月
10	日本習字漢字部	1 2 か月
11	日本習字かな部	1 2 か月
12	日本習字ペン部	1 2 か月

1 3	実用書道くらしの書	1 2 か月
1 4	日本習字墨画部	1 2 か月
1 5	日本習字臨書部	1 2 か月
1 6	書写技能基礎講座〔楷書編〕（文部科学省認定）	6 か月
1 7	書写技能基礎講座〔行書編〕（文部科学省認定）	6 か月
1 8	書道臨書講座【楷書Ⅰ】（文部科学省認定）	5 か月
1 9	書道臨書講座【楷書Ⅱ】（文部科学省認定）	4 ～ 1 2 か月
2 0	書道臨書講座【隷書】	3 ～ 6 か月

（４）日本習字模範揮毫DVD、日本習字臨書部模範揮毫DVD（付録：解説付拡大手本・条幅）、日本習字漢字部 条幅課題拡大手本 2 4、日本習字漢字部 条幅課題拡大手本 2 5 を頒布した。

（５）新入会者を対象とした教材「入門編（生徒手本課題集）」「入門編（成人手本課題集）」、学習指導書を発行し認定添削を行った。

（６）資格認定

ア．段級位の認定

（ア）会員の課題出品に対して各コースそれぞれの基準に従って審査し、段級位を認定した。

（イ）漢字部昇段試験を実施した。

受験有資格者に対し、昇段試験を実施した。（７月）

（ウ）臨書部昇段試験を実施した。

初段～五段（５月・９月・令和４年１月）

六段位（７月）

七段位（７月）

（エ）生徒部八段位昇段試験を実施した。（７月・１１月・令和４年３月）

イ．「くらしの書」実力の認定

希望者に対し、実力認定試験を実施した。（４月）

（７）認定証の発行

ア．所定の段級位（墨画部は伝位）合格者に対し、本人の申請により段級位等認定証を発行した。

イ．「くらしの書」実力認定試験の合格者に対し、本人の申請により認定証を発行した。



(8) 免許状の発行

免許状取得資格者に対し、本人の申請により免許状を発行した。



(9) 合格之証の発行

ア．漢字部の六段位、七段位、八段位の合格者に対し、本人の申請により合格之証を発行した。

イ．臨書部の六段位、七段位の合格者に対し、本人の申請により合格之証を発行した。

(10) 雅号之証の発行

雅号を希望する者に対し、雅号之証を発行した。

(11) 表彰

通信教育受講者の中から、特に成績が優秀な者を第72回文部科学省認定社会通信教育修了者表彰に推薦し表彰された（主催：文部科学省、一般財団法人社会通信教育協会）。4月23日に予定されていた表彰式は、新型コロナの影響により中止となった。

書道臨書講座〔楷書Ⅰ〕課程 1人

2. 実習指導



研修施設、全国各地域及びオンラインで実習指導を行った。

(1) 東京研修所 漢字部講座、漢字部研究講座、条幅講座、かな部講座、かな部基礎講座、臨書講座、書写書道研究講座を開催。

(2) 福岡研修所 令和3年度より日本習字ビルに開所。漢字部研究講座、漢字

部実力アップ講座、条幅教室、かな部講座、かな専科、臨書講座、書写と書道を学ぶ講座を開催。

- (3) 沖縄研修所 漢字部講座、漢字部研究講座、条幅講座、かな講座を開催。
また新規受講促進のため、公開講座を開催。
- (4) 各地講習会 全国各地にて実習指導（漢字部昇段試験対策講座、臨書講座、かな部講座、初歩からの篆刻講座、検定の先生に学ぶ講座、条幅チャレンジ講座、昇段試験フォローアップ講座、習字教室開設研修会等）を開催。

3. 学習希望者並びに継続学習者の支援

書道学習の機会拡大や継続学習の支援を目的に普及企画を実施した。

(1) 「お習字教室へ行こうキャンペーン」

キャンペーン参加教室に対して生徒募集チラシの進呈等の運営支援を行い入会特典として習字用具を進呈した。(1月～9月)

(2) 「わくわく体験 はじめてのお習字教室」

現会員の友達や保護者の知り合いを対象に、「習字の楽しさ」や「教室で学ぶ喜び」を知ってもらうための体験教室の開催を推進した。さらに教室開設2年目の活動支援として、「新聞折込・ポスティング費用の補助」「会場賃貸料補助」を行った。(2月～7月)



(3) 「中学部受講促進」

小学6年生に、中学部課題の先行学習機会の提供や、中学部継続受講申込特典等の学習支援を行った。

「中学部」継続受講特典（現小学6年生会員対象）

申込期限
5/20
まで

現在小学6年生の生徒会員で、新年度中学1年生への継続受講を、2021年5月20日（木）までに、1年会費（4・5・6・7月号から3月号まで）でお申し込みいただいた方全員に、日本習字特製半紙筆「プレミアム中学親峰（非売品）」を進呈します。

※進呈品は、4回の締日に分けて支部へお届けします。

受講申込受付		進呈品 お届け時期	
2021年	2/19（金）までの	受講手続き分	3月中旬
2021年	2/22（月）～3/19（金）までの	受講手続き分	4月中旬
2021年	3/22（月）～4/20（火）までの	受講手続き分	5月中旬
2021年	4/21（水）～5/20（木）までの	受講手続き分	6月中旬



（４）教室イベントの実施

長期化するコロナ禍で塞ぎがちな教室を、指導者と生徒の「笑顔でいっぱい」になるような、ワクワク、ドキドキする各種イベントの開催を推進した。

- ①タイムカプセルレター ＜１年後の君へエールを送ろう＞
- ②教室を彩る七夕飾り
- ③敬老の日「往復はがきでキャッチボール」
- ④「習字の日」教室イベント
- ⑤友だちを誘ってカレンダーを作ろう
- ⑥中学３年生対象「色紙」作品づくり
- ⑦「生徒八段合格きっぷ」寄せ書きイベント
- ⑧春の教室イベント



⑥中学３年生対象「色紙」作品づくり

（５）新型コロナへの対応

新型コロナウイルス感染拡大による「まん延防止等重点措置」の発出を受け、公共施設を使った教室が使用不可となった場合の在宅学習の支援と別会場設置の補助を行った。

4. 書道用具の頒布

会員に対し、書道の技能向上を図る上で最適な書道用具等を選定・推奨し頒布した。書道用具等は「選定品」「推奨品」「頒布会品」に区分しそれぞれ目的に応じて提供した。



(1) 選定品の頒布

オンラインショップ

書道技能向上を目的とした通信教育各コースの学習において、課題の履修のために欠くことのできない書道用具（筆・紙・墨・硯等）及び硬筆用具（鉛筆・ペン・用紙等）を頒布した。

(2) 推奨品の頒布

選定品以外に会員からの斡旋要望または書道作品制作及び書道学習の履修に必要となる用具を頒布した。

(3) 頒布会品の頒布

特別頒布会を実施し、文化祭や教室での作品展、イベント向けの書道用具・展示用具などの頒布会品を期間限定で斡旋した。春の特別頒布会では教室支援品、文房具等の頒布を行った。またオンラインショップ限定の頒布を新たに2回実施した。

ア.「たなばた特別頒布会」 5月～7月

イ.「かきぞめ特別頒布会」 10月～12月

ウ.「春の特別頒布会」 令和4年2月～3月

5. 国際交流

京都市近郊在住の留学生向けに書道体験ワークショップの開催を計画していたが、新型コロナウイルスの影響により中止した。

6. ホームページの運用

(1) 日本習字ホームページ

日本習字の活動やイベント等の告知、SNSや日本習字公式動画チャンネル

を活用して情報発信を行った。同時に日本習字の周知、習字教室検索、問い合わせ受け付け、展覧会告知ほか、広報の窓口として充実を図るために、ホームページを全面的にリニューアルした。また、通信教育受講申込・教室検索等の利用促進やPRのため、インターネットディスプレイ広告を実施した。



(2) 支部長専用 Web サイト

指導者に向けて、円滑な教室運営をサポートしていくことを目的に専用のサイトを運営した。より利便性の強化を図るためのメニューを新設した。

7. 習字の日（11月2日 いい（11）もじ（2）の語呂合わせ）

手書きの文字のよさや重要性を伝え、その文化を広めるべく制定したこの記念日を周知させるため、下記の企画を実施した。

(1) 「習字の日」PRの実施

「日本習字」のPRと「習字の日」の認知度アップ、書道を愛好する若者の応援を目的に、全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会へ協賛した。



(2) 「手紙をかこう」企画の実施

「習字の日」周知活動の一環として、会員向けに「手紙をかこう」企画を実施した（8月～12月）。一般向けには郵便局（福岡中央郵便局）にポスター掲示と「手紙の書きかたブック」を設置して広報した（10月～11月）。



8. 展覧会の後援及び書道展の支援

福岡矯正管区文芸コンクールをはじめ各種団体等が実施する書道展覧会等に対し、後援・審査等の支援をした。



9. 文化講演会の開催

「特別公開講座」を10月31日、福岡市で開催した。講師は相模女子大学の下田章平准教授で、テーマは『書写から書道へ—高等学校芸術科書道の役割と実施状況—』。



10. 創立70周年記念事業

令和5年9月1日に迎える創立70周年に向け、各種記念事業の企画立案を行った。

二. 書道に関する展覧会の開催

1. 書道展の開催

(1) 第26回公募日本習字展の開催

書道文化・書道教育の振興を図ることを目的に、広く一般から毛筆・硬筆作品を公募した。優秀作品はWeb展で発表を行い、特別賞受賞者を対象に東京で表彰式を行った。

ア．募集方法 本展の開催募集告知を新聞、当財団ホームページで行うとともに、書塾及び書道関係者、書道愛好家に文書にて協力を求めた。

イ．後援 文化庁 中国大使館 京都府 福岡県 京都府教育委員会 福岡県教育委員会 全国都道府県教育長協議会 全国高等学校長協会 全日本中学校長会 全国連合小学校長会 朝日小学生新聞 朝日中高生新聞 他報道機関 87社

ウ．公募期間 8月1日～9月16日

エ．応募総数 81,792点

オ．審査 日本習字展審査委員会

カ．審査結果 文部科学大臣賞 2点他各賞

キ．作品発表

(ア) 入賞作品を対象に、Web展を開催(令和4年2月～令和5年1月)

(イ) 文部科学大臣賞、観峰大賞作品を機関紙「日本習字だより」「たのしい習字」、当財団ホームページに掲載発表した。

(ウ) 上記2賞を含む特別賞作品90点を掲載した特別賞入賞作品ポスターを作成し応募者(代表者)に配布した。



ク．表彰式

特別賞受賞者を対象に、明治記念館(東京)〔開催日:令和4年2月13日〕において挙行了た。



ケ. 東日本大震災被災地への寄附

震災復興支援の一環として出品料の一部を、「いわての学び希望基金」(岩手県)、「東日本大震災みやぎこども育英基金」(宮城県)、「東日本大震災ふくしまこども寄附金」(福島県)に寄附した。

2. 書き初め大会の開催

(1) 第1回オンライン書き初め大会の開催

会員を対象に参加者を募集し、新型コロナを鑑みビデオ会議システムを活用し、大会本部と日本国内外の教室や自宅などをオンラインで繋ぎ開催した。揮毫作品は太宰府天満宮(福岡県)へ奉納した。

ア. 募集方法 指導者・会員に募集要項などを配布し、機関紙に開催告知を掲載した。

イ. 後援 福岡県教育委員会 報道機関9社

ウ. 募集期間 令和3年12月1日～12月21日

エ. 開催日 令和4年1月9日

オ. 大会本部 福岡市内

カ. 作品発表 参加者へは各々のSNSで作品を披露することを呼びかけ、後日、開催の模様を日本習字公式動画チャンネルで配信した。

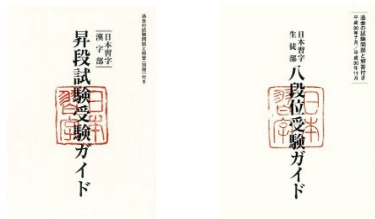
キ. 作品奉納 令和4年1月26日に太宰府天満宮へ奉納した。



三. 書道に関する機関誌その他の出版物の発行

補助教材として出版物を発行した。主な出版物は次の通り。

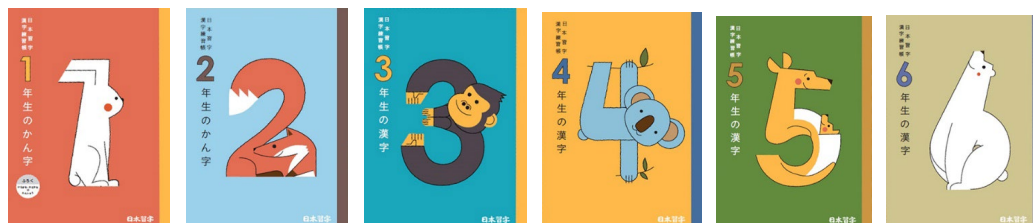
- (1) 漢字部昇段試験受験用教材として「日本習字漢字部 昇段試験受験ガイド 別冊過去の試験問題付き」、生徒部八段位昇段試験用教材として「日本習字 生徒部八段位受験ガイド」を発行した。



- (2) 幼児・児童向け教材として「はじめてのひらがな」、「だいすき！ひらがな」、「ひらがな練習帳1（五十音）」、「ひらがな練習帳2（ことば）」、「カタカナ練習帳」を発行した。



- (3) 漢字学習教材として日本習字漢字練習帳「1年生のかん字」を発行した（その他2年生～6年生まで）。



四. 文字資料その他文化資料の調査研究と展示公開

1. 書道文化に関する調査研究

博物館観峰館の収蔵資料の中から中国書画をはじめ、日本の教科書など筆墨文化に関する資料を分類整理し調査研究を行った。



(1) 関西中国書画コレクション研究会への参加

近代中国書画に関して他の博物館及び大学等研究機関との連携による共同研究に参加した。加盟館9館：京都国立博物館ほか

(2) 国立歴史民俗博物館共同研究への参加

「秦漢時代の文字使用をめぐる学際的研究」として、館蔵秦封泥資料を対象とした共同研究に参加した。

(3) 収蔵資料のデータベース化

収蔵資料の内容・作者・法量・制作年などをデータベース化した。



(4) 『観峰館紀要』第16号を刊行し、関係機関に進呈した。

(5) 秋季特別企画展「文人の行き交う街～近江商人が紡いだネットワーク～」の冊子を制作し発行した。



2. 文字資料その他文化資料の展示公開

(1) 常設展示（主な展示資料）

ア. 近代中国の書画、中国の文字資料、復元石碑

イ. 「避暑山荘」・「三希堂」の復元資料

ウ. 原田観峰書作品

(2) 企画展示を下記のとおり実施した。

	会 期	名 称
1	4月10日～5月30日	春季企画展「対聯飾り—おもてなしの言葉—」 (令和2年度延期分)
2	6月19日～8月29日	夏季企画展「何紹基—清朝巨匠の書—」
3	9月18日～11月21日	秋季特別企画展「文人の行き交う街～近江商人 が紡いだネットワーク～」(令和2年度延期分)



(3) バーチャル観峰館の公開

(1) 常設展示・(2) 企画展示の内容を遠方からでも閲覧できるよう、バーチャルツアーサイトを作成し、HP上で公開した。

(4) 館外展示

安田女子大学の「書道実地研究」に代わる資料貸出と作品解説(12月1日・8日)を行った。

3. 教育・文化施設の運営

博物館観峰館の施設運営並びに館内で各種体験学習教室、各種イベントを開催した。

(1) 概要

- ア. 開館日 4月10日～11月21日
- イ. 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
展示替え期間(5月31日～6月18日ほか)
資料調査・整理休館(11月22日～令和4年3月31日)
- ウ. 開館日数 163日
※淡海書道文化専門学校卒業展のため7日間臨時開館
- エ. 入館料 一般500円、高校・大学生300円、小・中学生無料
特別企画展は各1,000円、800円、無料
(団体割引、その他各種入館割引を実施)

オ. 入館無料日 関西文化の日ほか、年間計5日

(2) 書道に関する体験学習教室の開催

瓦当拓本教室、石碑採拓教室などを適宜開催した。



(3) 各種イベントの開催

ア. ギャラリートーク&ミニコンサート 1回

イ. ギャラリートーク 4回

ウ. 「夏休み子ども博物館」クイズラリー

エ. 土曜講座 6回

オ. オンライン講座 25回

カ. 第26回観峰館かきぞめ大会 (出品は郵送)

(4) 博物館学芸員実習生の受け入れ

4名を対象に実施した(8月)。

(5) 地域及び教育機関と連携した学習・研修機会の提供

淡海書道文化専門学校の学生に対して石碑採拓の実習指導を行った。

(6) 展示資料解説

各種団体・グループ来館者に対し館内の案内、資料解説を行った。

五. 書道に関する教育・研究機関への助成

「公募 公益財団法人日本習字教育財団 学術研究助成」の第8回助成金の

「学術研究助成成果論文集 Vol. 7」制作と、第9回助成の募集を行った(助成対象4件)。

六. その他本法人の目的を達成するために必要な事業

「書字教育に資する幼児教材開発のための基礎的研究」として、松本仁志氏(広島大学教授)を代表とする3人の研究者に研究を委託。就学前の幼児を対象とした幼児用書字教材開発のために必要な先行研究の調査・整理とデータの収集・解析を行った。令和4年3月に報告書の提出があり3年間の研究期間が終了した。